

最近の調剤医療費（電算処理分）の動向
平成 30 年 10 月

○ 概要

- (1) 平成 30 年 10 月の調剤医療費（電算処理分に限る。以下同様。）は 6,498 億円（伸び率（対前年度同期比、以下同様。）+1.6%）で、処方箋 1 枚当たり調剤医療費は 8,731 円（伸び率▲4.2%）であった。（→P.1~2）
調剤医療費の内訳は、技術料が 1,709 億円（伸び率+6.0%）、薬剤料が 4,777 億円（伸び率+0.1%）で、薬剤料のうち、後発医薬品が 902 億円（伸び率+4.6%）であった。（→P.4）
- (2) 薬剤料の多くを占める内服薬の処方箋 1 枚当たり薬剤料 5,209 円（伸び率▲6.3%）を、処方箋 1 枚当たり薬剤種類数、投薬日数、1 種類数 1 日当たり薬剤料の 3 要素に分解すると、各々 2.84 種類（伸び率▲1.1%）、23.6 日（伸び率+2.0%）、78 円（伸び率▲7.1%）であった。（→P.8,9）
- (3) 薬剤料の多くを占める内服薬 3,877 億円（伸び幅（対前年度同期差、以下同様。）▲24 億円）を薬効大分類別にみると、総額が最も高かったのは 21 循環器官用薬の 716 億円（伸び幅▲94 億円）で、伸び幅が最も高かったのは 42 腫瘍用薬の+46 億円（総額 320 億円）であった。（→P.13~19）

年齢区分	内服薬 総額 (伸び幅)	総額順（総額）		
		1 位	2 位	3 位
全年齢	3,877 億円 (▲24 億円)	21 循環器官用薬 (716 億円)	11 中枢神経系用薬 (703 億円)	39 その他の代謝性 医薬品 (601 億円)
0 歳以上 5 歳未満	31.9 億円 (▲5.3 億円)	44 アレルギー用薬 (13.7 億円)	61 抗生物質製剤 (6.3 億円)	22 呼吸器官用薬 (5.7 億円)
5 歳以上 15 歳未満	88.6 億円 (▲1.8 億円)	44 アレルギー用薬 (33.3 億円)	11 中枢神経系用薬 (21.8 億円)	61 抗生物質製剤 (10.1 億円)
15 歳以上 65 歳未満	1,344 億円 (+4 億円)	11 中枢神経系用薬 (303 億円)	39 その他の代謝性 医薬品 (221 億円)	21 循環器官用薬 (213 億円)
65 歳以上 75 歳未満	932 億円 (▲25 億円)	21 循環器官用薬 (206 億円)	39 その他の代謝性 医薬品 (177 億円)	11 中枢神経系用薬 (117 億円)
75 歳以上	1,480 億円 (+4 億円)	21 循環器官用薬 (294 億円)	11 中枢神経系用薬 (261 億円)	39 その他の代謝性 医薬品 (197 億円)

- (4) 処方箋 1 枚当たり調剤医療費を都道府県別にみると、全国では 8,731 円（伸び率▲4.2%）で、最も高かったのは北海道（10,422 円（伸び率▲3.6%））、最も低かったのは佐賀県（7,486 円（伸び率▲4.2%））であった。
また、伸び率が最も高かったのは山口県（伸び率▲1.9%）、最も低かったのは石川県（伸び率▲6.9%）であった。（→P.31~32）

【後発医薬品割合】（→P.39）

	後発医薬品割合	伸び幅
数量ベース（新指標） ^注	76.0%	+6.6%
薬剤料ベース	18.9%	+0.8%
後発品調剤率	73.5%	+3.5%
（参考）数量ベース（旧指標）	52.8%	+4.7%

注）【後発医薬品の数量】 / （【後発医薬品のある先発医薬品の数量】 + 【後発医薬品の数量】）で算出。

【後発医薬品 年齢階級別】（→P.40~41）

	全体	最高	最低
後発医薬品薬剤料の伸び率	+4.6%	+10.6% (5 歳以上 10 歳未満)	▲3.1% (65 歳以上 70 歳未満)
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	18.9%	22.5% (0 歳以上 5 歳未満)	13.2% (10 歳以上 15 歳未満)
後発医薬品割合（数量ベース、新指標）	76.0%	79.0% (60 歳以上 65 歳未満)	68.3% (5 歳以上 10 歳未満)

【後発医薬品（内服薬）薬効分類別】（→P.47~53）

年齢区分	内服薬 総額 (伸び幅)	総額順（総額）		
		1 位	2 位	3 位
全年齢	797 億円 (+27 億円)	21 循環器官用薬 (255 億円)	23 消化器官用薬 (113 億円)	11 中枢神経系用薬 (89 億円)
0 歳以上 5 歳未満	9.1 億円 (+0.6 億円)	44 アレルギー用薬 (3.4 億円)	22 呼吸器官用薬 (3.1 億円)	61 抗生物質製剤 (1.6 億円)
5 歳以上 15 歳未満	18.5 億円 (+1.5 億円)	44 アレルギー用薬 (9.9 億円)	61 抗生物質製剤 (3.3 億円)	22 呼吸器官用薬 (3.0 億円)
15 歳以上 65 歳未満	268 億円 (+11 億円)	21 循環器官用薬 (73 億円)	11 中枢神経系用薬 (40 億円)	23 消化器官用薬 (32 億円)
65 歳以上 75 歳未満	197 億円 (+2 億円)	21 循環器官用薬 (80 億円)	23 消化器官用薬 (27 億円)	39 その他の代謝性 医薬品 (21 億円)
75 歳以上	305 億円 (+12 億円)	21 循環器官用薬 (102 億円)	23 消化器官用薬 (54 億円)	11 中枢神経系用薬 (35 億円)

【後発医薬品 都道府県別】（→P.66~71）

	全国	最高	最低
処方箋 1 枚当たり後発医薬品薬剤料	1,212 円	1,609 円（北海道）	1,033 円（福岡県）
処方箋 1 枚当たり後発医薬品薬剤料の伸び率	▲1.4%	+1.2%（佐賀県）	▲4.5%（福井県）
新指標による後発医薬品割合（数量ベース）	76.0%	85.5%（沖縄県）	68.7%（徳島県）
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	18.9%	22.8%（鹿児島県）	16.4%（京都府）
後発医薬品調剤率	73.5%	81.4%（沖縄県）	68.1%（東京都）
（参考）旧指標による後発医薬品割合（数量ベース）	52.8%	62.1%（沖縄県）	48.2%（徳島県）

〔利用上の留意点〕

分析対象レセプトの特徴

- 審査支払機関（社会保険診療報酬支払基金及び国民健康保険団体連合会）において、レセプト電算処理システムで処理された調剤報酬明細書のデータを分析対象としている。
- 平成 30 年 10 月現在の電算処理割合は、処方箋枚数ベース、医療費ベースともに約 99%である。